

第1回
高校生
未来
サミット
2018

未来への提言。

KOKOSEI MIRAI SUMMIT 2018

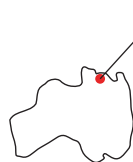


高校生
未来サミット
登山図（スケジュール）

ちょっと真剣に
未来を考えてみた件。

福島原発事故以降、大勢の大人たちが、未来をテーマに議論をした。でもこれから五年後・十年後に大人になるのは、いまの高校生。彼らがどういうビジョンで「未来」を捉えているのか？この「高校生未来サミット」で出しあった様々なアイデアは秀逸。そして議論のレベルも高かった。これからの彼らの活躍を、期待せずにはられない！





伊達市・霊山

福島県中通りの北部に位置する
人口約6万人の都市。
あんば柿の生産が有名。

伊達市霊山にある市民出資の太陽光発電所を見学。この発電所は福島県農民連が呼びかけ、2013年9月4日に完成となった。それにしても広大！およそ45軒分の発電量があると学んだ。驚きなのは、これが市民出資だということ。震災を皆で考えて出した一つの答えがこの発電所の形になった。今回のサミットも皆で考える事がテーマのひとつ。市民が協力することによって大資本を投入しなくとも大きなことができるんだ。

伊達市霊山にある市民出

資の太陽光発電所を見学。

この発電所は福島県農民連

が呼びかけ、2013年9

月4日に完成となった。そ

れにしても広大！およそ45

軒分の発電量があると学ん

だ。驚きなのは、これが市

民出資だということ。

震災を皆で考えて出した一

つの答えがこの発電所の形

になった。今回のサミット

も皆で考える事がテーマの

ひとつ。市民が協力するこ

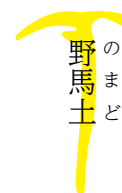
とによって大資本を投入し

なくとも大きなことができ

るんだ。



視察先①



視察先②

福島
りょうぜん
市民共同
発電所



浜通りでは野馬土で農産物の放射能検査を見学。誰しも自分が食べるものなら放射能の心配は拭えないもの。事故以降もここでお米づくりを続けている人たちがいる。安心して食べてもらえるように、お米は全袋検査。実際に米袋を持ってお米の重さを実感！生産者の努力が垣間見えた。

相馬市

福島県浜通りの北部に位置する市
浜通りといえば「原発の被災地」と
思い浮かべるが比較的線量は低かった。



福島市

福島県中通りの北部に位置する
人口約 28 万人の都市。
「花も実もある」というキャッチフレーズにあるように果実どころ。



未来サミットも終わり、解	散！とはならず、寄りなけれ	ばならない場所がある。福島	といえ、やっぱり果物！阿部	さんの梨園をみんなで見学。	阿部さんの話から自然相手の	果樹栽培を学んだ。当たり前	のように私たちの食卓に美味	しい果物が届くけれど、生産	者の努力なしにはこの当たり	前はない。	実は、この梨園で高校生の皆	は蚊にたくさん刺されてしま	ってました。・。かゆいか	ゆいと言いながらも、梨のお	いしさに感動！
--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	-------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------

視察先③



農家民宿
体験



高校生未来サミットの宿泊

場所は・・・、農家民宿！二	本松東和の農家に別れての宿	泊となった。特に大阪の高校	生たちは普段見慣れない農村	の暮らしを生で体験して、と	ても刺激になったみたい！今	回のサミットのテーマは食料	やエネルギー。でも勉強は机	に座ってやるだけじゃないの	がこのツアーのいいところ。	福島の暮らしを自分たちの体	で感じたからこそ理解でき	るものもたくさんあった。
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	--------------

視察先④



あべさんの
果樹園



二本松市・東和

福島県中通り北に位置する。
「智恵子抄」に詠われた安達太良山と阿武隈川で知られる。
人口 5 万 6 千人。



福島のお米とエネルギーを考える。



TEAM
お米大好き
MEN

「ふくしま」を伝える。

TEAM
JK3 世代

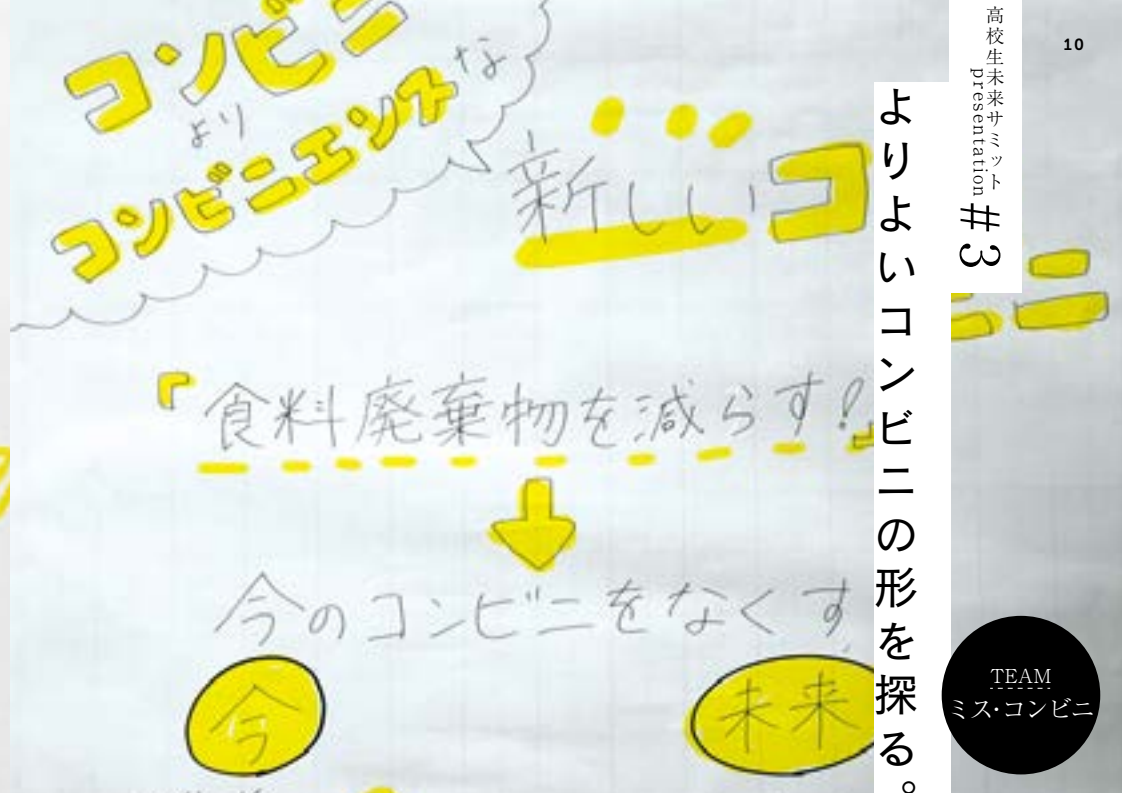


お米大好きMENチームは、福島のお米とエネルギーを減らすために何が必要か議論して発表した。

原発がある以上風評被害は収まらないのではと考え、それに代わるものとして火力発電はCO2を多く排出するので増やせないだろう。そこで水素を使った燃料電池や太陽光発電などの再生可能エネルギー、使う量を減らす省エネも必要だ。そして使う場所の近くで作れば送電のロスも少ない。チームで考えることで様々な視点で考えることができた。

JK3世代チームは「風評被害」をテーマに劇の形式で自分たちの成果を発表。「より伝わるためにはどうすればいいか？」とメンバーで考えた結果、劇で発表するという斬新なアイデアに行きついた。生産者、消費者、それぞれの立場を考えて台本を制作し、それぞれの考え方や思いをセリフに込めた。風評被害という重いテーマも高校生の彼女たちが演じることで良い意味で軽快な発表となり、観る側も楽しみながら理解するできた。この劇を通して、お互いの立場を理解し合うことの大切さを考えることができた。

よりよいコンビニの形を探る。

TEAM
ミス・コンビニ

エネルギーの未来を考える。

TEAM
エネルギー
チーム

ミスコンビニチームは、食糧問題をテーマに研究を発表した。その中で一番身近な「コンビニ」が題材となった。生産者や加工、流通、小売にかかわる人たちの視点で「よりよいコンビニにするためにはどうしたらいいんだろう？」とメンバー全員で考え抜いた。普段、私たちが利用するコンビニは単純な消費行動をする場所ではないが、確かに彼女たちが言うように様々な人にメリットがある理想的な形があるのかもしれない。とりとめのめないことに疑問を持ち、深く考えることの大切さを気付かせてくれた。

エネルギーチームは、これらのエネルギーについての発表を行った。原子力発電所の事故を受けて、加速する再生可能エネルギー。本当はどんな未来がベストなのか。違うビジョンを持つ我々が、お互いを否定して「対立」するのではなく、お互いを知り「対話」をすることの意義を彼らは訴えた。

様々な発電の安全性・危険性やコストなどの観点から対話の要素をピックアップした。また、フェイクニュースの例などを交え、自分たちの理解と判断力の大切さを説いた。ドイツからの留学生のデニスくんも加わりよりグローバルな内容となった。

感想文 高校生未来サミットを終えて

私たちの班は「コンビニをなくしてみる」という発想で話し合った。討論の中で、気づいたらとりとめがなくなってしまうていた。発表も満足できない部分もあり、悔しかった。その中で、私たちの答えのない問いに対して、考えていかなければならないのだということに気付かされた。この悔しさを持ち続けて、考える意欲を失わないようにしたい。意識していないと、「とりとめのないことについて考える」ことが面倒になってやめてしまいそうだから。本

当に良い活動に参加させてもらった。

仲良くなれるか不安

「こんな風にしたい！」

テーマにした議題が最初はとても難しく思えた。でも周りの人と協力して意見をまとめていく中で、難しいと思っていたテーマも別の視点から考える発見があった。また、祖母の実体験や、2日間での体験を通じ、福島の人たちともたくさん交流ができた。

今回の企画に参加するにあたり、最初はどんな企画なんだろう？とすごく不安だった。

だったみんなとも、学校の仲間と話し合うよりもずっと真剣に深く話し合えて仲良くなれた。本来にきてよかったと思つた。ツアーを通して、こんな人になりたいと思える大人や、自分の考えをしっかりと持った自分とは違うタイプの人達をたくさん見ることができて、視野が広がった。

「こんなシステムはよくない！」と口で言うだけでなく実際に行動している方のお話を聞く機会があり刺激を受けた。大阪の高校生と交流して、みんな未来に対しての目標や不安があり、自分にも考え直させられる部分が多くあった。

これからのどんな未来をつくっていくのかについて、ぼんやりとではなく、こんなに具体的に考えたのは初めだった。

これからのどんな未来をつくっていくのかについて、ぼんやりとではなく、こんなに具体的に考えたのは初めだった。

これからのどんな未来をつくっていくのかについて、ぼんやりとではなく、こんなに具体的に考えたのは初めだった。

も刺激になった。周りのみんなも積極的で、自分の日常では考えられない体験ができた2日間でした。

サミットの発表ではどの班もどんどん引き込まれる内容だった。みんなが口先だけでなく、本心で福島の問題を解決しようと思ってるからだと思う。

ほしいと思った。

このサミットに参加するまで、福島のことをよく知らなかったけれど、太陽光発電などの再生可能エネルギーや、お米の検査などを実際に見て学ぶいい機会になった。農家の方の努力、お米屋さんの苦労がかくれていた。それ以外にも、福島の方の優しさや温かさに触れて涙が出てきそうになった。もっと政府はこういう問題に目を向けて

本当は、「五千円で東北に行ける！」ということが最初のきっかけだった。しかし2日間で色々な場所へ行き人の話を聞いて、どんどん知識を増やすうちに、自分が成長するのを感じた。

とだけれど、少しずつでもしっかりとちゃんと生きていきたい。

なかでも僕が特に心に残ったことは、「ポジティブに生きること」と「知らないことの怖さ」だ。知らないということとは、正しい情報を判別できず、流されてしまう可能性はある。だからこそ、しっかりと知識を身につけていきたいと思う。ポジティブに生きることとはなかなか難しいこ

初めて会ったメンバーとお泊りしたり、ご飯を食べたり、明確な解決策が無い問題に対して2日間の議論！真剣に考えることはとにかく、めっちゃ楽しかった！

福島って、ゲームセンターとか、映画館とかアミューズメントパークがあるわけではないけど、自然があつてのどかだし、ご飯がおいしいし、最高！この福島を見た自分が大阪で伝えられることは大きいと思う。

みで驚いたことは1度も甲狀腺検査を受けたことがないということ。福島の高校は2年に1度甲狀腺がんの検査が行われている。大阪の高校生は甲狀腺がんの検査そのものを認識していなかった。他にも話してみないとわからないことが多くあり、このような機会があることは大切だと思つた。

ニュースでは見ることでできないものを実際にしたり聞いたりできた2日間だった。でも被災地というイメージではなく、福島の人をよく笑っていて明るく生きていると感じた。

大阪の高校生と話して

大阪の高校生と話して

大阪の高校生と話して

大阪の高校生と話して

大阪の高校生と話して

大阪の高校生と話して

大阪の高校生と話して

でも実際は、山林はまだ放射能の問題があつて山菜やキノコがとれない。もとに戻るのが難しい原発事故の深刻さを知った。

て楽しいサミットとなつた。今まで東北に行ったことがなかったので、今の福島の状態を知ることが出来て良かった。

思えた。改めて将来のこと
とを考えるきっかけに
なったツアーでした。

同じ日本に住んでいても、過ごした場所が違え

主的に取り組んでいる雰
囲気がよかった。実際
行ってみたり、その土地
の人と話してみたりしな
いとわからないことがあ
ると思った。

議論では、AとBの意見だけで対立するのではなく、Cの意見を見つけるという解決策やドイツでの考えを知り、日本のこ

高校生が考えたとは思えないほどみな高度で素敵な内容でした。また発表の内容、手法の学習になりました。

ば価値観や考え方が違って
いるように思いました。福
島と大阪、同じ日本だけれ
ど、近くない場所に住んで
いる人の意見

この2日間で学んだことはたくさんある。私たち市民でも驚くような場面が多くあった。震災以

とについて教育や原発と
かを考え疑問を持つこと
ができた。

4班ともそれぞれ違う

考えを持っていて、完成度が高い発表で驚いた。新しくて面白いアイデアが次々と出ていた。自分の考え方と照らし合わせて刺激を受けた。充実し

切だなと思いました。どんなに内容が素敵でも伝わるものが伝わらないのはもったいない。

最後に大人の方の思いをきいてこの空間にいることが本当に幸せだなと

は新鮮でとてもおもしろいものでした。福島、日本について深く考えることができた良い2日間でした。

降の原発について学ぶ機会や、考える機会はたくさんあったものの今回の企画は、それらとは違うことがあった。私たちは

物事を論理的に考える
ことと気持ちを考えること
との両方が大切だと思っ
た。普段学校ではない
ような深い話にみんな自

いてのテーマを劇で発表した。最初、班のみんなが劇をやるとなると少し不安だったけど、この2日間とても楽しく過ごせ

て良い思い出をつくり
いい経験ができた。

他の県の人と話すことで、他県から見た福島についてを知れた。

風評被害について、様々な目線から討論ができ、大阪の人たちがこんなにも深くまで、福島について考えてくれていることがすごい。

福島の人同士だけでなく他の目線でいろいろな解決策を考えることができた。どんどん出てくる案がどれも魅力的だった。

STAFF & SPECIAL THANKS



see you !
@
next summit

